

「ペット」で論争 悪い?

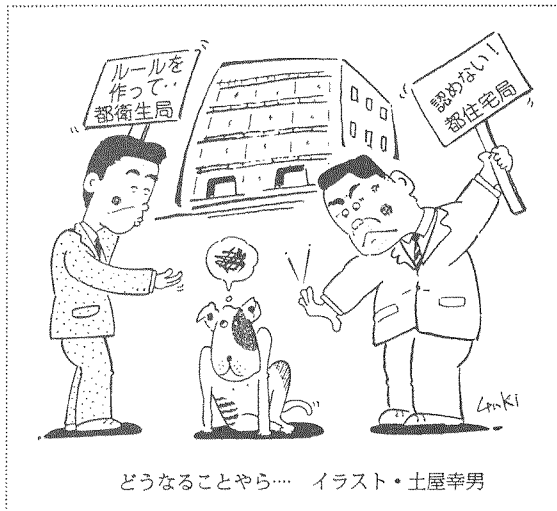
苦情増を心配

都住宅局

集合住宅でのペット飼育をめぐる、東京都の衛生局と住宅局で「不協和音」が起きていた。衛生局が飼育ルールをまとめた「管理規則モデル」に基づいて乗り出したのに対し、住宅局は都営住宅でペット飼育が「解禁」になれば、鳴き声やにおいの苦情がますます増えることを心配するからだ。空のペットブームの中、集合住宅での「1人1ペット」のかかわりに、まだ答えは見えてこない。

都の諮問機関・都動物保健管理委員会が今年七月「都でも(集合住宅の)管理規約を作る際に、ペット飼育規則のモデルを示す必要がある」と集合住宅でのペット飼育を事実上認める答申を出したが発端。それを受け衛生局は、今年度中にモデルの作成に取り掛かることになった。

当惑しているのは、都内



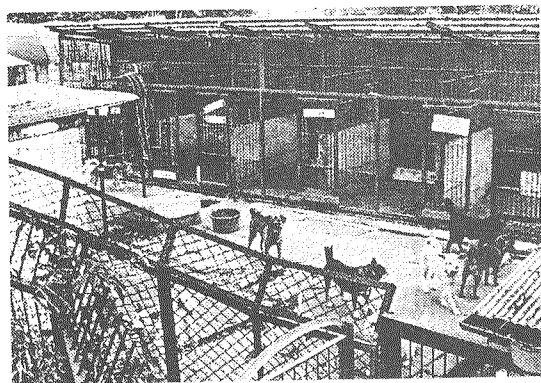
マルライトセンターでは、動物関連の新聞、雑誌の記事やテレビ放映に関心をもって。とくに、全国の皆さんに読んでほしい記事や投書やコラムなど目にとまりました切り取って、あなたの意見を簡単につけて送ってください。また、収録ビデオの場合HFでおねがいします。(いずれも返還は致しません)

送付先: 〒194 東京都町田市中町1-5-3-401 アニマルライトセンター

(第3種郵便物認可)

毎日新聞

かながわ プラザ



老朽化が目立つ県動物愛護協会の犬舎

老朽化が著しく 収容施設改築へ

★県動物愛護協会

動物の虐待防止や飼育主のない犬や猫の里親さがしなどの活動をしている財団法人神奈川県動物愛護協会(横浜市港北区、下里洋一会長)の収容施設が、設立から三十五年たち老朽化が著しいため、収容施設の一部を改築することになった。「施設が老朽化する一方で、虐待されたり、飼育主に見放された犬や猫がい

「ここに絶えない」と、同協会は困惑している。動物愛護協会は一九五八年四月、当時の内山岩太郎(横浜市長)の収容施設が、設立から三十五年たち老朽化が著しいため、収容施設の一部を改築することになった。「施設が老朽化する一方で、虐待されたり、飼育主に見放された犬や猫がい

猫三十四匹が収容されている。老朽化した施設に加え、犬舎には全く防音効果がないため、近隣からの苦情にも十分対応できずにいる。「近所の方にも昼間はなんとか我慢して頂いてますが、夜間は、夏場でも蒸し暑いコンクリートの犬舎に閉じ込めておくしかない」と飼育係。

虐待される動物も後を絶たず、今月初めには茅ヶ崎の浜見台団地内で、首に針金を二本巻き付けられた白い猫が発見され、同協会に保護された。針金を巻き付けられた首の部分は赤くはれ、うんで腐ったような状態だったという。すぐに獣医の手当てを受け、傷口は徐々に回復に向かっている。現在は「シロ」と名付けられ、同協会で新しい里親を探している。

「近隣地への迷惑を少しでも緩和して、収容動物たちの環境をよくするために施設の改善が急務」と、改築を決議しました。施設改築費用への寄付を呼び

掛けている。
 あて先 横浜市港北区篠原台町8の41 神奈川県動物愛護協会(045・421・5592) 郵便振替口座 横浜 114637。